

## 令和6年度 第2回大田区SDGs推進会議 議事録

日時	令和7年1月21日(火) 午後4時00分から午後5時30分まで	会場	羽田イノベーション シティ PiO PARK
出席者	■村木会長                    ■高木副会長                    ■松本委員 ■北村委員                    ■磯委員                        ■藤原委員 ■出席                        ■諏訪委員                    ■海老名委員                    ■西委員 □欠席                        ■齋藤委員                    ■梅崎委員                    ■山田委員		
傍聴者	3名		
配布資料	次第 資料1 大田区SDGs推進会議委員名簿 資料2 令和6年度第1回大田区SDGs推進会議 会議録 資料3 事務局資料(1) 資料4 事務局資料(2) 資料5 事務局資料(今後の予定について) 参考1 SDGsパンフレット 参考2 こども向けSDGsパンフレット 参考3 SDGsおたゴールドスカイパートナー申請様式案一式 (申請書、宣言書、チェックリスト)		
次第	1 開会挨拶 2 議題 (1)SDGs推進に向けた今年度の取組について (2)SDGs認定制度について 3 今後の予定について		

### 1 開会挨拶

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ただいまより、令和6年度第2回大田区SDGs推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私は本会議の事務局を務めさせていただきます、SDGs未来都市推進担当課長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の会議は、12名の全委員の皆様にご出席いただいております。なお、諏訪委員については少し遅れてのご出席となる予定でございます。また、本日の会議は、議事録作成のため録音させていただきます。議事録は、後日区のホームページで公開させていただきます。

では、会議の開催にあたりまして、企画経営部長の齋藤よりご挨拶をさせていただきます。齋藤部長、よろしくお願ひします。

## ○齋藤企画経営部長

皆さんこんにちは。大田区役所の企画経営部長齋藤でございます。本日第2回ということで、お忙しい中、ご参集賜りまして誠にありがとうございます。

前回の第1回を6月に行ったわけですが、その際にSDGsの認定制度を段階的に進める方向性や行動変容に向けた取組について、多くの貴重なご意見をいただきました。それをもとにSDGsおおたスカイパートナー認定制度を創設させていただきまして、12月に認定式をさせていただき、区内98の事業者にご参加いただいております。

この制度を通じて区内でSDGsに取り組む事業者の活動を広く共有することで、他の事業者や地域全体の波及効果を生み出していきたいと考えてございまして、また持続可能な地域社会につなげていきたいと、このように考えてございます。

本日の会議ではこのスカイパートナー認定制度をもう一段高めたゴールドスカイパートナー制度、こちらの方も事務局としては考えてございますので、これについてもご意見をいただきたいと考えてございます。

今後ともSDGsの推進をさらに進めていきたいと考えておりますので、本日の会議につきましてもどうぞよろしくお願い致します。

## ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

本日の資料ですが、ペーパーレス推進の観点から、前回の会議と同様、お手元のタブレット、または会場内のプロジェクターにより資料をご覧いただく形とさせていただきます。資料としては、次第、資料1として大田区SDGs推進会議委員名簿、資料2が前回の推進会議の議事録、資料3、4が事務局資料、資料5が今後の予定を示した資料、また参考資料としてSDGsのパンフレットやこども向けのパンフレット、SDGsおおたゴールドスカイパートナー申請書の一式(チェックリスト等)を添付しております。委員の皆様の机上には、タブレットの操作マニュアルを配布しております。職員も待機しておりますので何かございましたらお声がけください。なお、参考資料1、2のパンフレットと参考資料3内のチェックリストについては、委員の皆様の机上にも配布しております。

それでは、これより議題に進みますので、進行を会長にお願いさせていただきます。村木会長よろしくお願ひいたします。

## 2 議題

### (1) SDGs 推進に向けた今年度の取組について

#### ○村木会長

それでは早速ですが、議題(1)SDGs推進に向けた今年度の取組について、事務局から説明をお願いします。

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

事務局より説明させていただきます。

まずタブレットの操作方法について、最初にご案内させていただきます。画面上には事務局進行中のスライドが表示されておりますが、他の資料をご覧になる際は、画面右下に表示されている「参加」ボタンを押して、資料の共有状態を解除し、格納されているデータをご覧ください。

再度「参加」ボタンを押していただくと、事務局進行中のスライドに戻ります。

ではこれより、議題の1点目、SDGs推進に向けた今年度の取組についてご説明させていただきます。

資料の2ページをご覧ください。今年度の取組内容全体を示しております。まず、未来都市計画としては、内閣府からの初のヒアリングがございました。また、経済・環境・社会で、それぞれ行った主な取組を記載しております。これらについて順に内容をご紹介します。その他、区民向け普及啓発として、広報物の作成やワークショップの実施等、また、事業者向けの取組としては、SDGs認定制度を開始しました。認定制度については、資料2にてご説明させていただきます。

3ページをご覧ください、内閣府からのヒアリングになります。当日はオンラインによる開催で、まず区から未来都市計画のKPIの進捗状況等について15分発表を行い、その後約10分間、委員の先生方との質疑応答という流れで行われました。

区に対する質疑応答は、自治体SDGs推進評価・調査検討会委員の村上座長と蟹江委員の2名から行われました。

4ページをご覧ください。ヒアリングを踏まえた区に対する評価となります。こちらに記載しております委員のコメントがそのまま内閣府HPに掲載される予定でございます。全体計画に対しては、「積極的な取組が見られ、大田区のポテンシャル、地場産業を活用し、より活性化する取組であると高く評価している。また、今回の進捗評価では、プログラムが着実に進んでいることを確認し、あらためて全国のモデルになる自治体活性化のプログラムであると考えている」など、前向きな評価をいただいております。区としても引き続き計画に沿った施策を推進してまいりたいと思います。

5ページをご覧ください。個別の取組についてのご説明になります。経済についてですが、区内のSDGs推進に向けた連携協定締結になります。本取組は、ファンドを活用した企業支援の取組でございまして、日本政策金融公庫と独立系のベンチャーキャピタルである、フューチャーベンチャーキャピタル社と連携したものととなります。この2社と自治体が連携したファンドの取組は、他にも事例がございまして、参考で大阪府の社会課題解決ファンドのスキームを掲載しております。こちらの取組は、ファンドが社会課題に取り組む企業に投資を行い、自治体もファンドと連携し、自治体の制度等で企業をサポートすること

で、ファンドと共に企業を支援し、その取組を通じて社会課題解決に繋げていく取組となります。

大田区の未来都市計画でも、補助金等に頼らない企業支援を推進するとしており、それを具現化する手法を検討しまして、今回ファンドという手段を取り入れることとしました。今後、大田区版として、SDGs推進ファンドを組成し、区内のSDGs推進に取り組む企業を支援していく予定です。

6ページをご覧ください。こちらは、環境面の取組でございまして、区と6者のSAFに関する連携合意でございまして、SAFについては内閣府のヒアリングでも、区に期待するとのコメントがございまして、本取組は、区とJAL、区内に店舗を有する事業者5者が連携し、家庭用の廃食用油をスーパーなどで回収し、SAFとしてリサイクル・活用していくことで、脱炭素を目指していくものになります。羽田空港を有する区であることやSDGsの観点から、SAFは区が取り組むべき課題と捉えておりましたが、今年度、このような形で取組をスタートしております。

7ページをご覧ください。社会の取組の「おおたの未来づくり」になります。「おおたの未来づくり」は、大田区独自教科で人材育成の取組ですが、地域の学校が授業パートナーとなる企業や団体と連携しております。その中で、志茂田小学校とイトーヨーカドーの連携で、学校給食の「たこぺったん」を商品化する取組がございまして、今年度、これが海外の大学に注目され、区との交流が始まった事例がございましたので、紹介させていただきます。

グリネル大学の准教授の方が、未来都市である大田区のSDGsの取組に興味を持ったことから問い合わせをいただき、その中で特に「おおたの未来づくり」に関心があったことがきっかけですが、昨年11月に、志茂田小学校の児童とグリネル大学の学生がオンラインで交流し、たこぺったんの取組内容のプレゼンやそれに対する質疑応答がなされました。また、今年3月にはグリネル大学の学生が来日する予定ですが、その際に志茂田小学校やイトーヨーカドーを訪問しての意見交換も行われる予定です。区の取組が海外でキャッチされて、そこから新たな交流が生まれた良い事例でしたので、ご紹介させていただきました。

8ページをご覧ください。ここからは、区民向けの普及啓発の取組になります。今年度から様々な取組を行っており、順にご説明いたします。まずは、広報物の作成になります。お手元に配布しておりますが、SDGsに関する広報物を大人向け・こども向けに作成しました。大人向けの内容としては、区の特徴や課題、未来都市計画の内容、個人が様々な場面で実践できるアクションなどを紹介しています。また、こども向けについては、小学生をメインターゲットとして、分かりやすいマンガで作成しています。本冊子については、区のHPで公開しているほか、ワークショップでの配布等を行っております。

9ページをご覧ください。ワークショップについてのご紹介となります。今年度、区内で開催されるイベント等の機会をとらえて、合計4回のワークショップ

を実施しました。内容としましては、SDGsに関連した親子で参加できるワークショップとして、廃棄野菜、シーグラス、間伐材やロスフラワーなどをテーマにしたほか、東京都と連携したカードゲーム形式のワークショップを実施しています。

ワークショップについては、参加者アンケートもっており、14ページに結果をまとめております。

14ページをご覧ください。今回のアンケート結果の集計ですが、合計で718人と多くの方にご参加いただきました。また、満足度としては98%の方から好意的な回答を得ており、95%の方はSDGsについて考えるきっかけになったとの回答がございました。ただ、「SDGs未来都市に選ばれたことを知っていたか」という設問については、知っているという回答が20%以下と、区が未来都市であることの認知が低い水準であることが分かりました。今回、SDGs未来都市の認知やそのPR面には課題も確認できましたが、ワークショップ単体では、満足度が高く、行動変容のきっかけとなる効果も期待できますので、地道な活動ではございますが、来年度も継続的にワークショップを実施してまいりたいと思っております。

続いて15ページのピンバッジの販売でございます。普及啓発に向けて、今年度より大田区オリジナルSDGsロゴマークピンバッジやはねぴよんとコラボしたバッジを販売しておりますが、12月末時点でそれぞれ販売数は、71個、48個となっております。

16ページをご覧ください。最後にSDGsに関する区民意識調査の結果についてでございます。昨年8月に区民意識調査を実施した際、SDGsに関する意識も対象としました。その前に同じ内容で調査を行った2022年12月の結果とあわせてご紹介いたします。まず、SDGsについて知っていたかという認知度については、「内容まで含めて知っていた」、「内容はわからないが聞いたことがある」を認知度としていますが、83.4%から90.8%となっており、認知度については上昇しております。また、年代別結果も載せておりますが、男女ともに60代までの認知度は90%を超えており、特に男性の10代・20代・30代は認知度が100%に達するなど、若い層中心に高くなっております。その反面、男女ともに70歳以上の認知度は相対的に低い水準となっております。

続きまして、17ページをご覧ください。SDGsに関する意識と行動についてでございます。「日頃からSDGsを意識した行動をしている」、「SDGsを意識し、行動にも気を付けるようにしている」を行動している割合として集計しております。こちらは、前回42.4%から今回42.1%と、少し低下してはいますが、水準としては大きな変化が見られない状況でございました。また、年代別をみても、70歳以上が他の世代と比べて低いという傾向は共通していますが、認知度に比べると、全年代とも行動している割合は下がっています。

18ページをご覧ください。先ほどの調査項目で「SDGsを意識しているが、特に行動はしていない」と「SDGsを意識しておらず、特に行動もしていない」

を選択した回答者については、行動していない理由についても回答してもらっています。理由を最大3位まで選ぶ形式ですが、「具体的に何をすればよいかわからない」、「自分の生活にどのような関わりがあるのかわからない」、「SDGsという言葉が何を意味するのかわからない」が多く選択されています。

19ページをご覧ください。調査結果のまとめや課題、それを踏まえた今後の方向性を記載しております。調査結果のまとめの部分は口頭でお伝えしたとおりですが、課題の部分としては、①認知度の点から高齢者層への普及が遅れていること、②SDGsの認知度自体は高いものの、それが行動に反映されていないこと、また、③行動に反映されていない理由としては、「具体的に何をすればよいかわからない」や「自分の生活との関わりがわからない」が多く回答されており、SDGsを意識した行動の周知が必要であることと捉えています。

今回の調査を受け、区としては個人向け普及啓発やワークショップについては、引き続き来年度以降も継続していく予定でございますが、アンケート結果を踏まえた今後の方向性としては、高齢層が多い場、例えば自治会や町会などでの普及啓発や、年齢を限定しないワークショップを検討したりなど、高齢層への認知度向上も視野に入れた取組も行ってまいりたいと思います。

また、行動しない理由について、「具体的に何をすればよいかわからない」が多いですが、お手元の区が新たに作成したパンフレットでは、家庭内で行えること、学校や勤務先で行えること、外出先で行えることといった個人ができる具体的なアクションも示していますので、このようなツールを活用したりしていきたいと思います。また、全体的な認知度は高い水準ですので、認知ではなく内容をより深く学べる体験型ワークショップも実施していくなどの取組を行っていききたいと思います。

20ページをご覧ください。最後に本日ご意見を頂戴したいポイントになります。事務局より、今年度実施した取組をご紹介させていただきましたが、取組内容についての評価やご意見、こういった取組が良かったですとか、逆にこのような事を行っていくべきではないか等いただき、そのようなご意見を踏まえて、来年度以降の取組に活用してまいりたいと思います。

また、2点目として、SDGsに関する調査については、今後も区民意識調査等で定点観測を継続していきますが、今年度の調査では、高齢者層の認知度やなかなか行動に反映されていないこと、各種課題も見えており、区としてはそれを踏まえて、改善に取り組んでいきたいと考えております。課題感やそれを踏まえた取組の方向性等についても、ご意見いただければ幸いです。

事務局からは以上でございます。

○村木会長

ありがとうございました。

皆様からご意見とかご質問を伺いたいと思いますので、ご意見、ご質問ある方、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

#### ○高木副会長

1つ目に区民の意識を変化させる、促す施策というのは大変よく分かりました。一方で、住民がSDGsを意識せずともSDGsに関する取組ができるような工夫というのも、私は並行して必要だと思っています。例えば、たばこの吸い殻のポイ捨てがありますが、投票形式のゴミ箱があるとします。AかBかどちらが好きですかとかそういうものがあると思わずポイ捨てせずにそこに捨てるとか、そういうSDGsを理解してもらい行動が変わるまで待つのではなく、思わずそうさせるような取組も、行政が進めてはいかがでしょうか。

2つ目ですが、環境面に少し取組の偏りを私は感じました。もう少し社会の側面、多文化共生とか障害者の方が住みやすい暮らしとか、そういったところも考える必要があると思いました。

最後3つ目ですが、区民への行動変容だけでなく、行政の施策をSDGsをきっかけにしてどのように変えていくかも必要と考えています。もし補足でご説明があればお願いします。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

1点目の自然とSDGsに触れていくような取組は重要だと思っており、ワークショップに参加いただく中で、自然とSDGsを意識していくというような流れができるといいなと思っています。高木委員から教えていただいたたばこの吸い殻の取組は、本当に無意識につながっていく部分だと思います。我々のワークショップ等は来年度も引き続きやっていますが、自然と入っていき、そのまま残って、流れを生み出せるものを検討したいと思っています。

また、ワークショップが環境面に寄りすぎている部分は、今年度からワークショップを始めたため、やりやすさを考慮した結果、環境面に寄ってしまったため、事務局としてもより広い範囲でやっていかなきゃいけないという話もしているところです。社会の側面という部分、大田区についても外国人の方が増えており、多文化共生というのは非常に今後大きい課題になってくると思いますので、広い範囲でのSDGsというのもやっていきたいと思っています。

行政の施策をSDGsでやっていく部分については、次の資料の認定制度のところでご説明をさせていただきますが、今回スカイパートナーに入っていた事業者様が、今どういったSDGsに取り組んでいるか、またそれを踏まえて今後どういったものをやっていきたいかというのは、アンケートをいただきましてそちらに集計等をしております。

その中で区が思った部分や、こういった方向性で生かしていきたいという部分がありますので、次の資料で改めてお話しさせていただければと思います。

### ○村木会長

廃棄野菜でお花アートを描こうというプロジェクトは、こどもに廃棄野菜というものが存在するということを認識させるには良いと思うが、廃棄野菜の活用を食べ物として活用する方法を学ぶということもあって、食べられるものを工作に使うことが本当にSDGsなのかと疑問に思ったので、若い子たちへの説明の仕方等、ワークショップについてはもう少し考えていく必要があると思います。

### ○海老名委員

課題の一つに高齢者層への普及と書いてありますが、SDGsという言葉ではなく、「世の中に良いこと」等、違う言葉をカッコ書きなどで書いてあげれば、70代の方でやっている方もいるのではないのでしょうか。

### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

皆さんが自然とやられていることが実はSDGsにつながっているが、それがSDGsに繋がっているということがきちんと伝わっていないという部分はあると思いますので、わかりやすく発信する努力をしていきたいと思っています。

### ○磯委員

SDGsを説明すれば、今の高齢者の大半は分かります。高齢者を外に出すことが重要です。ごみの問題がありますが、高齢者がごみを出していることが多いので、SDGsを高齢者に認識させた方がよいと思います。高齢者が理解できるという前提で、これはSDGsの一環であなたは地球環境に十分寄与しているということを訴えた方がクリアです。自然にといいよりは、しっかりSDGsに十分貢献していることを伝えることが、重要だと思っています。

### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

確かに若い人達は学校教育でもSDGsに触れているため、認知度が高く、ワークショップ等で自然と入っていけるようなアプローチが有効だと思っております。高齢者については、積極的に宣伝していく姿勢が伝わりやすいと思います。区では認定制度としてスカイパートナー制度を始めましたが、区内全ての自治会連合会に入っただき、区のSDGsの取組を各自治会にご説明させていただきました。自治会は高齢者の方が多いので、より積極的にそこに発信していく取組をやっていききたいと思っています。

### ○松本委員

イトーヨーカドーとの取組を通じてアメリカから関心を持たれたのは、非常によいことだと思います。大田区でもイノベーションを考えていると思いますが、う

まくPRして、その取組に誰かが関心を持ち、知恵や情報が集まってくるサイクルができるとよいと思うので、これをふまえてPRの仕方を考えて、色々外から集まってくる循環ができるとよいと思います。

もう1点、廃棄物というのはまず量を出さないことが大前提としてあると思いますが、出てしまったものはアップサイクルすると楽しいよという、両面がうまく伝わると良いと思いました。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

「おおたの未来づくり」については予期していないところで問い合わせがあり、PRが大事だと改めて感じました。SDGsのPRについてもきちんと意識することで、このような連携が生まれ、それが誰かに伝わっていく可能性があるので、PRについても積極的にやっていきたいと思っています。また、ワークショップで食べ物を別の用途に利用した所については、持続可能性には繋がらない部分があると反省しており、よりSDGsに繋がる部分を意識できるように考えて改善していきたいと思っています。

#### ○村木会長

ありがとうございました。続いて、議題2のSDGs認定制度についてご説明をお願いいたします。

### (2) SDGs認定制度について

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

では、議題の2点目、SDGs認定制度についてご説明いたします。

認定制度については、今年度の第1回SDGs推進会議におきまして、様々なご意見をいただきました。頂戴したご意見等を踏まえ、区のほうでも改めて内容を整理いたしました。

資料2ページをご覧ください。まず、認定制度の全体像を示したものになります。今年度開始したのが、「SDGsおおたスカイパートナー制度」で、企業・団体など区内事業者に広く参加していただく制度です。来年度開始予定なのが「ゴールドスカイパートナー制度」で、スカイパートナーより発展的な取組を行う事業者を認定するとともに、具体的なインセンティブを用意することで、事業者の更なるSDGs推進を支援していく制度としていきたいと考えております。

令和8年度以降は、制度の改善充実として、例えば認定事業者の意見をお聞きして、インセンティブの拡充などを実施していきたいと思っています。それに加え、認定事業者間の連携促進など、制度を活用することで、区内全体のSDGs推進につなげていきたいと考えております。

また、各制度のインセンティブも示しております。まず、大田区オリジナルSDGsロゴマークは誰でも使用可能ですが、スカイパートナーに認定されれば、

区から認定証を交付し、区ホームページで認定事業者の名前や取組の紹介を行います。更にゴールドスカイパートナーに対しては、よりインセンティブを強化いたしますが、これらの内容等につきましては後ほどご説明いたします。

資料3ページより、今年度開始したスカイパートナーについて、ご紹介いたします。

資料4ページに認定事業者一覧を掲載しております。全部で98の事業者を認定いたしました。内訳としては、企業が59社、団体が39団体となっております。

資料5ページ、6ページは認定した事業者のロゴとなります。こちらは区HPでも公開しております。

つづいて、資料7ページになります。昨年12月には、認定事業者を対象とした認定式を開催し、認定証をお渡しするとともに、千葉商科大学客員教授の笹谷秀光氏をお招きして、「企業・団体等におけるSDGsの更なる推進・実践について」と題した、企業・団体向けの特別講演会を実施いたしました。認定式には70の事業者にご参加いただきました。

資料8ページをご覧ください。こちらはSDGsおたスカイパートナーの申請の際に、事業者の皆様からご提出いただいた宣言書になります。2030年のあるべき姿を記入いただくとともに、これまでに取り組んでいる、これから取り組みたいSDGsのゴールを選択いただき、選択したゴールについて、これまで取り組んできた内容とこれから取り組みたい内容を具体的に記載していただいております。

資料9ページをご覧ください。事業者の皆様が選択したSDGsのゴールを集計した結果となります。これまでに取り組んでいるSDGsのゴールとしては、ゴール11が最も多くの事業者から選ばれ、続いて、ゴール3、12が多く選ばれました。これから取り組みたいゴールとしても、ゴール11が最も多く選ばれ、ゴール8、17が後に続きました。

資料10ページに現状分析や今後についてまとめておりますが、まずゴール11については、これまで取り組んできたゴール、これから取り組みたいゴールのどちらでも最も多くの事業者が選んでおります。ゴール11は、「住みつつけられるまちづくりを」ということで、交通、住宅、環境、防災といった幅広い分野に渡り、地域の持続可能性を支える基盤を作る重要な目標となりますが、それぞれの事業者の方が、自身の様々な事業を通じて活動をしており、それが共通のゴール11を目指していくというSDGsの繋がりを感じられる結果だったと考えています。また、これから取り組みたいSDGsゴールとしては、ゴール8やゴール17が選択されていますが、区としては施策を推進していく上で、SDGs17のゴールが相互に関連して、一つの取組が他の取組にも寄与する構造をきちんと意識しながら、例えばゴール11を軸にしなが、他の取組も進めていくなど、SDGsを起点に区と事業者が一体となってよりよい大田区をつくれるように、取り組んでいきたいと思っております。

資料11ページをご覧ください。スカイパートナー関係の最後の資料で、今後の予定となります。来年度は2回に分けて募集を行う予定ですが、それ以降は通年での募集を検討しております。

資料12ページをご覧ください。ここからは、来年度以降に募集を開始予定の「SDGsおたゴールドスカイパートナー」についてご説明いたします。ゴールドの制度については、前回の推進会議で多くのご意見をいただきました。その中で、最も多くいただいたご意見としては、「大田区らしさをきちんと出していくべき」、「未来都市計画でチャレンジングな目標を掲げているので、それを実現できる認定制度とすべき」ということでした。

区としても、SDGsを進めていくうえで、大田区らしさは重要だと考えており、改めてどのような認定制度・方向性としていくべきか内部で議論を重ねました。例えば、議題1で紹介したSAFの取組は、羽田を舞台に新しいSAFという社会課題に取り組み、社会実装を推進し、脱炭素社会を目指していく、大田区らしい取組と考えております。その取組の肝となる部分は、区がハブとなって、業態が異なる、また同じ業態であっても競合する会社同士を繋いでいくことで、実現できた事例だと思っております。

区としては認定制度をツールに、「このような連携を数多く生み出していくこと」が重要と考えており、企業の大小等問わずに、みんなで参加し、盛り上げていくという機運をつくっていきたいと考えています。そして、多様な主体が集う中で、多くの連携が生まれ、その中から結果的に、大田区らしい・尖ったイノベーションが生まれていく、というサイクルを目指していきたいと考えております。そのため、認定制度そのものについては、ベーシックな建付けにはなりますが、最初のスカイパートナーで企業・団体含めて広く入っていただきましたが、ゴールドではより発展的な取組をされる方をインセンティブで支援していく中で、区と共に取り組んでいく事業者を増やしていき、連携となる土台を広げていくものにしたいと考えています。

それでは、制度の中身について、ご説明させていただきます。ゴールドのチェックリストは、机上に配布しておりますので、そちらもあわせてご覧ください。経済、環境、社会の分野で計25項目のチェックリストを設定し、6割以上達成している事業者を認定いたします。経済分野の項目としては、例えば、地域課題解決に繋がる新たなイノベーション創出に取り組んでいるという項目があります。こちらの項目のように、未来都市計画の推進に特に寄与する項目には、【未来都市】と表記しています。社会分野の項目としては、例えば、地域課題解決、地域活性化に取り組んでいるという項目、働き方や労働環境に関する項目等があります。環境分野の項目としては、例えば、温室効果ガスの排出量を測定し、削減に向けた取組を進めているという項目があります。

ゴールドの認定には、スカイパートナーとの違いとして、1年ごとに進捗報告を必要としております。ゴールドの申請の際に、宣言書に特に力を入れている

取組内容を3つ記載していただき、記載いただいた内容について、1年ごとに進捗報告をしていただきます。区としては、この進捗報告を確認していきながら、今後の取組の参考にしたり、認定事業者との対話のツールにして参りたいと思います。

資料13ページをご覧ください。ここからはチェックリストの特徴について、説明させていただきます。まず1つ目の特徴として、SDGsゴールのインターリンクを意識した作りとしています。関連するSDGsゴールについて、メインとサブを分けて記載することにより、1つのゴールだけではなく、各ゴールのつながりを少しでも感じていただくことが目的となります。

資料14ページをご覧ください。チェックリストに関連した支援メニューも用意しています。環境分野のチェック項目に「温室効果ガスの排出量を測定し、削減に向けた取組を進めている」という項目がありますが、区で導入支援しているCO<sub>2</sub>可視化サービスの他、きらぼし銀行様とNTTデータ様が提供しているサービスも事業者向けに紹介していきます。

本チェックリストは、区として事業者に取り組んでいただきたい項目でございますので、CO<sub>2</sub>可視化のように単独での取組が難しい事項につきましては、伴走支援も行ってまいりたいと思います。なお、きらぼし銀行様とNTTデータ様が提供しているCO<sub>2</sub>可視化サービスについては、売上高50億円未満の事業者であれば、無償で利用できるものとなります。こちらについては、きらぼし銀行様からいただいたチラシも机上に配布しておりますので、あわせてご覧ください。

資料15ページをご覧ください。チェックリストの特徴として、優工場の認定を受けている事業者については、全体の点数に20点加点し、100点満点ではなく、120満点とします。優工場は、人に優しい、まちに優しい、技術・技能及び経営に優れた工場を認定する制度です。審査基準がSDGsとの親和性が高く、また、実地調査等の十分な審査をもって認定しているため、積極的に加点対象としています。また、従業員がいない場合には関係のない項目については、従業員なしの場合は回答不要としており、その分認定に必要な点数を緩和しています。これにより、個人事業主の方もご申請可能な制度としています。

資料16ページをご覧ください。ここからがゴールドのインセンティブの説明になります。インセンティブに関しては、前回の推進会議でも、入札の加点などは恩恵がある業種に限られるのではないかとのご意見をいただきました。今回は、多くの事業者にメリットが生じるよう、金融面でのインセンティブを強化しており、区融資制度の借入限度額の拡大ときらぼし銀行様の融資商品の提供の2つを加えております。

資料17ページをご覧ください。金融面でのインセンティブを掲載しています。一つは、区融資制度「SDGs・脱炭素推進企業支援資金」の限度額拡大になります。本制度は、今年度、融資限度額1,000万円までの制度となっております。

すが、制度の利用の要件を満たした事業者が、ゴールドスカイパートナーに認定されている場合、利用限度額を大きく引き上げたいと思います。他の自治体等では融資制度のインセンティブで多いのは金利や信用保証料の補助ですが、区では借入可能額の増加で支援をしていきます。

また、きらぼし銀行様による新たな融資商品については、ゴールドスカイパートナー認定事業者を対象とした新たな融資制度であり、認定企業に対して、融資利率を優遇していただく予定で調整中でございます。

資料18ページをご覧ください。ゴールドスカイパートナーの今後の予定でございます。本推進会議でのご意見等を踏まえて制度内容を調整し、3月中に制度の内容を確定し、来年度4月から募集を開始したいと思います。

19ページをご覧ください。以上がSDGs認定制度のご説明となりますが、最後に本日ご意見を頂戴したいポイントはこちらとなります。まず、ゴールドスカイパートナー制度に関して、来年度の制度開始に向けて、チェックリストの構成やチェック項目、インセンティブの内容等について、ご意見を頂戴できればと存じます。

また、SDGs認定制度については、制度構築も重要ですが、制度構築後それをどのように活用して連携をおこしていけるかが、より重要と捉えています。他の自治体の例でも、認定事業者対象のセミナーや認定事業者同士のマッチングイベント等、様々行っており、区としても連携促進に向けた取組を今後行っていく予定です。その中で、どのような取組が望ましいか等、ご意見を頂戴できればと存じます。

事務局からは以上でございます。

#### ○村木会長

ありがとうございました。

ご意見やご質問を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

#### ○高木副会長

チェックリストの構成・項目について、メインは1つに絞った方がわかりやすいかと思います。メインが4つもついているとなかなか趣旨が伝わりづらいと思うので、メインを1つに絞って大きく表示し、関連するものを小さくサブでお示した方が、チェックするとき理解しやすいと思います。

もう1つ、大田区の「優工場」認定を受けたことがあるという項目以外は、他の自治体とかなり似た内容の項目だなと思いました。例えば、商圈というのは、おそらく大田区の企業も大田区に限るものではなく、川崎市や品川区ともお仕事されていると思うので、チェック項目の内容が変わりがないのであれば近隣自治体の制度との乗り入れなどを行政間でやりとりして、取得する企業にとってより取りやすい制度にしていくのはどうかと思いました。それができれば、お互い

のイベントに参加するなどした結果、新しいビジネスチャンスが生まれる可能性もあるかもしれません。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

まず、チェックリストのインターリンケージの部分ですが、インターリンケージを感じていただくために、メインとサブを分けました。1つ1つの項目を作っていく中で、色々なものに広がっていると感じ、多くのものを載せてはいますが、委員のおっしゃるとおり、区として何をメインと考えているか示す方が分かりやすい部分もあるので、全ての項目のメインが必ず1つに絞れるかは分かりませんが、メインはなるべく少なくして、サブで多くのものを示し、分かりやすくするように改めてチェックリストは検討したいと思います。

認定制度については、多くの事業者に参加していただきたいと思いがあり、ベーシックな制度としています。その中で、優工場や未来都市の項目には大田区らしさを出していますが、それ以外は他の自治体と近い内容となっています。区として、認定制度を活用して何をしたいかという、企業間の連携を起し、イノベーションが起こっていくことを期待しております。また、SDGsをツールとして、より広い連携をしていきたいと考えています。他の自治体との連携も魅力があるので、やり方等を検討していきたいと思います。

#### ○高木副会長

乗り入れについては、委員の皆様や認定いただいている98社の方にもお話を伺って検討いただければと思います。

#### ○磯委員

連携によりWin-Winになればよいので、近隣地域と言わず広く連携してもよいのではないのでしょうか。例えば、産業界であれば、大田区には色々あって、日本全国で連携しているので、そういったところを通じて情報交換するのではないのでしょうか。大田区には中小企業の業界トップの企業が沢山あるので、日本全国で組むのも産業界では1つの手だと思います。

#### ○海老名委員

認定数の98というのは多かったのか少なかったのかもありますが、企業、団体を見ると、やっぱり大企業が多い感じがします。大企業は他の自治体で取得していればゴールドでも横展開が可能だと思います。自治会の連合会は力をいれているのでこれだけの数が入っていますが、その反面、例えば工連などが入っていないので、工業をやっているところに対する推進が今回弱かったのではないかと思います。次年度どのように対策を打つのが大事です。中小企業は経営者が言わないとやらないと思うので、次年度は申請するモチベー

ションを高める取組も是非お願いします。

#### ○村木会長

大田区がどういう会社にゴールドパートナーになってほしいかを考えるということだと思います。大企業だとチェックリストを書ける人達がいるけど、中小企業だと難しいかもしれない。それを踏まえて、会社の規模や区としてどういう人にゴールドスカイパートナーになって欲しいのかを考えながら、チェックリストを検討しないといけないと思いました。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

大田区として、どういう企業に入っていただきたいかの議論は行っています。前回の推進会議で、未来都市計画に特化して、イノベーションを起こしている会社を選んで区の方でお願いをして入っていただく方向性もあるのではないかとのご意見をいただきました。確かに、そのような方向性で進めた結果、生まれるイノベーションもあると思いますが、それだとクローズドになってしまう懸念があります。SDGsという観点では広くやっていくことが重要だと思っていますので、今回は、区とSDGsをやっていく思いがある事業者の方に入っていただきたいという思いがあります。その中でこういう事業者とこういう事業者が入ったので、こういう取組をやっているかという形で、広く入っていただいた後にクローズドな取組を行っていくという順番でいきたいと考えています。

チェックリストについては、他自治体では具体的な内容の記載やエビデンスを要請しているところもありますが、さすがに利便性が下がるので、40項目あったリストを25項目に減らし、チェックのみにするなど工夫しています。進捗報告は煩雑な部分ではありますが、区としてはこれをツールに会話をしていきたいという思いがあり、今のチェックリストの形と宣言書の内容としました。

#### ○諏訪委員

チェックリストをやってみたらほぼチェックが入りました。そういう企業の方が多いいと思います。このチェックリストを出すだけでパートナーになるのは違う感じがするので、産業のまちの中で、社会解決型の事業に対して今後取り組んでいきたい企業をパートナーとし引っ張り上げるべきだと思います。特に産業界は変革期に入ってきており、今までの業態を変えなければ生き残っていけない状況になっているので、尖った企業をゴールドパートナーにするなどのご検討をお願いします。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

ご指摘の通り、チェックリストは定性的な部分が多くなっており、項目によっては具体的な認証の取得など分かりやすいものもありますが、基本的には何

に取り組んでいるかどうかを申告してもらった性質となっています。区としても、ある程度厳しい取組や画期的な取組、かつそれらを数字で測れるものが望ましいかと思い検討しましたが、企業ごとに業種、業態が異なるなど、一律で数字で測りづらい要素が多くあることから、共通のチェックリストとするために定性的な項目を示したうえで、事業者にも柔軟にチェックをしていただく運用になると考えています。

色々な方に参加していただき、参加者を増やしていく中で、全体での取組でもよいし、個別の取組でもよいのですが、何かを生み出す土台の部分は、ある程度広めには取っていきたい思いがあります。また、尖った企業に入ってもらおうという部分については、制度に入った事業者の中で尖った事業者同士で連携することもできると思っております。基礎自治体の認定制度としてはこういった形になると考えています。区としては、これをもとに連携を生み出し、その中から素晴らしいものを生み出したいと考えています。

#### ○諏訪委員

大田区の企業が幅広くこういう土台でやっています、というのは確かにそうなのですが、ここから協力して何か新しいものが、この制度があるから生まれるのか、という話は変わってくると思います。これはSDGsの取組で、持続可能な社会を目指すのは、みんながやらなければいけないことであるが、その中で、協業して新しいものが生まれるかという、どうなのでしょう。

#### ○村木会長

今のご指摘は大事だと思います。これだとパートナーとゴールドの違いがそれほど感じられなくて、最初のSDGsの未来都市の認定でやってきた尖った大田区らしさが見えなくなってしまう感じがします。

「匠の技術が集うものづくりのまち」というものが、ゴールドスカイパートナーのチェックリストからは見えてこない。「ものづくりのまち」「匠の技」という大田区が持っている他の地域にないものをうまく使わないと、本当はいけないのかもしれないです。それをゴールドパートナーから何かやるというのであれば、もう一つ筋書きがないと、せっかく参加いただく中小企業から「なんだ」と思われてしまうかもしれないですね。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

大田区らしさをどう出すかということで、羽田イノベーションシティのイノベーションや水素など最先端のものもあれば、町工場など伝統的な部分もあると考えています。未来都市計画で多様な主体との連携によるイノベーションという部分を掲げておりまして、認定制度については多様な主体を生み出すツールという整理をして、このような制度としています。認定事業者には実証実験で成

果が出ているイノベーションを優先的に紹介していくといった形で、参加しているメリットを感じていただけないかと考えております。

認定制度に見合うインセンティブが必要だと思っておりますが、財源上区から提供できるものも限られているので、これで大田区らしさが生まれるのかというご意見はあるかと思っておりますが、多様な主体の連携を生まれる場としてこの制度を使い、走らせながら制度を改善し、大田区らしさを作っていきたいと思っております。

#### ○諏訪委員

せっかくここはイノベーションシティなので、ここでイノベーションが生まれるよう、中小企業・小規模企業が参画できるようにして、そこから新たなものが生まれていくのが理想なのだと思います。

川崎重工業のKAWARUBAを見学させていただいたとき、社会課題解決に向けて大田区の企業と一緒にやっていきたいというご要望を伺いました。しかし、それを周知する手段がなく、デンソーが入っていることも我々のところにはおいてこないというのがあります。今認定を受けている大企業は社会課題解決を行っている企業なので、そういった大企業と連携できるようなことをひとつ項目に加えてもよいのではないのでしょうか。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

川崎重工業はスカイパートナーにもなってもらっており、SDGsに関わらず色々なことをやっていこうと直接話もしています。リーディングカンパニーとの連携は大きなメリットになると思うので、入っていただいた方には限定イベントに参加できる等、メリットを感じられるようなものにしていきたいと思っております。

#### ○磯委員

尖ったというのを出すのは難しいと思いますが、SDGsをもとに全て尖っていくのはどうでしょうか。例えば、福岡市では小学校の体育館にペロブスカイトを貼る構想を出して、はじめているようです。大田区の小学校にもペロブスカイトを取り入れてはどうでしょうか。

それから、大田区には羽田空港や多くの飲食店があるため、飲食店から廃油を集め、SAFとして活用すれば、尖っています。大田区には羽田空港などの自慢できる日本全国に通用するものがあるので、それを打ち出したらよいのではないのでしょうか。

#### ○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

既にペロブスカイトやSAFは大田区でも取り組んでおり、今後伸びていく分野なので、羽田を舞台に発信していくことができれば、区のPRになると思っております。

います。また、行政の方で企業を選んでいかない方が結果的に尖っている事になるのではないかと考えており、まずはSDGsに取り組みたい色々な方が仲間に入っていただいて、その上で何か尖ったものを見いだせる土台となる制度になるように、取り組んでまいりたいと思います。

#### ○北村委員

ゴールドスカイパートナーの先があることが今だと分からないので、そこを見える化してはどうでしょうか。大企業との連携等をゴールドスカイパートナーの募集時点で、パートナーになれば企業の事業拡大に向けて伴走していきまうということが分かると、ゴールドスカイパートナーだと自分の事業に役立つ可能性が見え、手の挙げ方が変わる可能性があるのではないのでしょうか。きらぼし銀行ではCO<sub>2</sub>の見える化を始めているが、CO<sub>2</sub>の見える化だけをやりたいのではなく、その先に一緒に排出量を減らす伴走をしたいということをお客様に説明しています。そのような共感を得られる工夫があるとよいと思います。

#### ○松本委員

内閣府から大田区はよくやっていると高評価がでているので、スカイパートナーを取ること自体が凄いことになれば、取引先からも評価されるので、各自治体でやっている中でも大田区の制度がブランド化できると尖ってきてよいのかなと思います。

インセンティブについて、大学発ベンチャーで研究シーズをどう実装化、産業化していくかというときに、実証実験の場がなくて大田区の企業に頼っているという話もあります。今は国をあげて大学発ベンチャーを育成しようという動きになっていますので、東京にある実証実験の場として大学の研究シーズとうまくマッチングできたら、大田区らしさもでてくるのではないかと思います。もちろん、研究シーズと実装化は色々な壁があり、一直線にはいかないとは思いますが、それがまさにイノベーションであり、連携をしたい企業が多いということであれば、うまく結びつくと思います。

#### ○藤原委員

スカイパートナーに入った事業者が大田区のこの取組に賛同したということもベースにあると思いますが、どんな取組をしているかを見える化をしながら、取組の発展形というかたちでゴールドスカイパートナーがある感じがします。この発展は、98でスタートした企業の多くが上に行ってほしいという見方と、特殊なことや新しいことをやっている企業をよりクローズアップして特別に見せるというやり方と、2つあると思っています。この活動をより盛り上げていくためには、まずはスカイパートナーの色々な取組が盛り上がっているという見せ方をする部分と、さらにゴールドパートナーにどういう会社を上げていくのか、多くを上

げていくのか、特筆性を上げていくのかでやっていく内容は変わります。大田区らしさの部分と、全体を底上げする部分のどちらもあると思いますので両方の目的をうまく落としながら進めていければよいのかなと思います。その先のゴールとしてどこを目指していくのか、ゴールがあつてそこに向けてバックキャスト的にやることを検討する必要があると思います。

#### ○齋藤委員

第一弾のスカイパートナー制度を発足させていただきましたが、企業の皆様への啓発ということもあり、裾野の広さを主眼において、ハードルを低く認定させていただきました。高木副会長からは、どちらかという環境に偏っているのご意見、また、企業からは福祉団体には関係ない印象があるなどのご意見がありました。役所の立場からすると公平性を頭に置いているので、総花的になってまいりますが、皆様の話を聞いて、改めて原点回帰ということで、SDGs未来都市を認定された時のイノベーションやHICityの特色などの尖った面も大事であると感じました。

ゴールドスカイパートナー制度はこれからブラッシュアップしていきたいので、行政目的、区としてこういうものを求めているというのをお示ししながら、もちろん企業の皆様のインセンティブやメリットを加味しながら、それと多くの企業に参加していただくというバランスをうまく整えながら制度設計をしていきたいと感じました。

#### ○村木会長

区の方針として多くの方にスカイパートナーに入っていただくというのは分かります。今日出たご意見からすると、尖ったというのがあるので、区としてスカイパートナーとゴールドスカイパートナーの仕組みを作りつつ、去年までに議論した尖ったものが見える、ゴールドスカイパートナーから一部横にはみ出るようなものを作っていないと、大田区のやってきたものが見えないので、そこは肝に銘じてやっていただきたいと思います。

#### ○梅崎委員

ここまでの各委員からのご意見を伺っていて、どうしたらイノベーションが生まれるか考えていました。スカイパートナーは裾野を広くということですが、大企業の方々はスカイパートナーにいるべきではないと考えています。大企業が考えていることを裾野の広い方々が色々な情報を得て、大企業が色々実験をしている事を、我々が活用して何か一緒にできませんか、というようなことを皆さんは期待しているのだろうなと思いました。

ゴールドスカイパートナーのところに「SDGsプラットフォームとの連携、情報発信、事業者間交流」とあるけれども、ゴールドスカイパートナーが持っている

実験したいことを自治会連合会等スカイパートナーが抱える社会課題解決に向けた実験につなげるのが行政の役目かなと思いました。行政の中でも実証実験の場を提供していますが、そういうことをむしろスカイパートナーが求めているのではないかと思います。例えば福祉現場でも、大企業が持っている技術を活用できるヒントをスカイパートナーが共有できるつながりができれば、スカイパートナーの人へのインセンティブが生まれると思います。ゴールドスカイパートナーへのインセンティブは融資制度の拡大等がありますが、公民連携SDGsプラットフォームとの連携については、ゴールドスカイパートナーではなく、スカイパートナーが欲しいものかもしれないので、産業経済部としてももう少し考えさせていただきたいと思います。

#### ○海老名委員

小学校などはスカイパートナーに入れるのでしょうか。HICityを大田区の全小学生に社会科見学してほしいです。認知度を上げるために、小学校を入れながら啓蒙活動をしてほしいです。未来のために、若い人の団体も入れることは可能でしょうか。

#### ○齋藤委員

スカイパートナーに入ることは可能ですが、制度に入ることが適しているかどうかというのは別問題だと思います。

#### ○海老名委員

社会科見学をやるのは、ぜひ区として実践していただきたいです。人が集わないとイノベーションは起きません。若い人が増えると景色も変わってくると思うので、ぜひお願いしたいと思います。

#### ○齋藤委員

マンガ版のこども向けパンフレットも作りまし、学校のこどもたちはタブレットを一人一台持っていますので、そこで色々な発信をしています。社会科見学・遠足でここに来るのは可能だと思いますので、担当課と相談したいと思います。

#### ○山田委員

エッジの効いた産業・環境の取り組みが評価されたのはその通りだと思います。行政としては広くというのも、しょうがないところだと思っています。

HICityはポテンシャルがあるので、ここを拠点に大田区のSDGsは進めていかなければいけないと思います。これからは予測不可能なVUCAの時代と言われていますが、分かっている既存の安心なことだけやっていたら、イノベー

ションは起きないと思います。

資料4の2ページに三角形がありますが、そこから四方に線がでている(周りに影響を与える)ような、全国で大田区だけという形があっても良いと思います。先日も「地域DX・GX新インフラ創造プロジェクト」というイベントをやったのですが、区内にはエッジの効いた面白い企業がたくさんあります。なので、そういったところをもっと掘り下げていき、スカイパートナーもゴールドスカイパートナーも大事だが、一本どころかたくさん触手が出ているような見たこともない三角形があっても大田区ならではのSDGsでよいと思います。SAF、ペットボトル回収など色々な取組をやっているなので、そういったところを含めながら、ゴールドスカイパートナーさらにプラスアルファできるように取り組んでいきたいと思った次第です。

○村木会長

皆様、色々ご意見ありがとうございました。議題はこれで終わりになります。事務局にマイクをお返しします。

### 3 今後の予定について

○佐藤SDGs未来都市推進担当課長

村木会長ありがとうございました。それでは最後に事務局より今後の予定についてご連絡をさせていただきます。

ゴールドの制度につきましては、本日いただいたご意見を踏まえまして、区で内容を調整し、改めて各委員の皆様にご意見を示しの上、会長、副会長に相談し、制度を固めてまいりたいと思います。

また、令和7年度の推進会議は7月頃に開催をしたいと思っております。内容といたしましては、令和6年度の総括ですとか、令和7年度を取組方針を予定してございますが、改めてご連絡をさせていただきます。

本推進会議につきましても、これまで、未来都市計画の策定ですとか、認定制度の創設等に向けてご意見をいただく部分がメインでございましたが、今後は策定した計画ですとか、作った制度に基づいた取組がしっかり行えているかという進捗管理を行う場として活用させていただきたいと思っております。

また、今後より多くの連携に向けまして、下半期にはスカイパートナー認定事業者を対象としたイベントセミナー等も実施してまいりたいと考えておりますので、これについても来年度の推進会議の場でご報告させていただく予定でございます。

以上をもちまして、令和6年度第2回大田区SDGs推進会議を終了させていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。